



ほっと35号

ホームページ URL
<http://dokaren.com>



*2022年度北海道知的障がい児・者家族会連合会 <定期総会報告>

- *日時: 2022年5月29日(日)13:30~15:45
- *会場: 北広島市芸術文化ホール 活動室1・2
- *開会: 小谷副会長が司会を務める
- *会長あいさつ: (p2 参照)
- *友誼団体メッセージ: (p3~p7 参照)
- *来賓あいさつ: (p8 参照)
- *出席家族会紹介: 小谷副会長が8地区それぞれを呼称し、地区ごとに起立
- *出欠報告: 出席家族会23、出席者37名、議決権行使書39、委任状17
- *議長選出: 安田副会長が議長を務め、以下を報告し承認を得る
 - ・出席家族会数、委任状、議決権行使書で、家族会総数82の過半数となり総会が成立
 - ・出席家族会プラス議決権行使書の過半数をもって議決し、賛否同数の場合は議長が決する
 - ・議案の採決は家族会毎に1名の挙手にて行う
 - ・議事録作成のためのレコーディング
- *議事:
 - ・第1号議案 2021年事業報告・絆事業報告
 - 原案どおり可決 (賛成 55、反対 0)
 - ・第2号議案 2021年度一般会計・絆事業特別会計・会計監査報告
 - 原案どおり可決 (賛成 55、反対 0)
 - ・第3号議案 全施連からの退会について
 - 原案どおり可決 (賛成 41、反対 15、保留 1)
 - ・第4号議案 2022年度事業計画
 - 原案どおり可決 (賛成 51、反対 1)
 - ・第5号議案 2022年度一般会計・絆事業特別会計予算
 - 原案どおり可決 (賛成 56、反対 0)
- *その他: 安田議長が議案書に基づき説明
 - ・三役の一部変更 (畑中事務局長退任、安田事務局長新任(副会長退任)、神野副会長新任)
 - ・高齢化による措置 (議決権を行使するのが幹事でも OK)
 - ・アンケート調査の結果 (議案書のとおり)
 - 質問・意見等なく終了
- *議長退任
- *閉会

[会長あいさつ]



北海道知的障がい児・者家族会連合会 会長 近藤 正

2019年末から続いている新型コロナウイルスの流行は次々に変異株が現れるなど、未だ終息が見えず世界の脅威となっています。

さらに、ロシアによるウクライナ侵攻により多くの犠牲者や難民が出るなど、経済面を含め今後の私たちの生活にも大きな影響を及ぼす国際情勢の変化が起きてい

ます。

平和で普通の生活が送れることの有難さを感じる昨今です。

そんな中で、私たち家族会の活動においても大きな変化がありました。

道家連が求める要望事項7項目を基本に活動するとともに、懸案となっていたことにも着手しました。

道家連が加盟していた全国知的障害者施設家族会連合会（全施連）からの退会を役員会で決議しました。

役員一人ひとりの実務活動を支援し、少しでも励みになってくれたらとの思いで役員活動費を計上することを役員会で決議しました。

本日の総会の議案として提示させていただきました。

また、昨年度に取り組みを具体化させた「入所支援施設での看取り」を各施設で実現するには、まだまだ困難な課題が山積しています。

さらに、連携すべき新たな全国組織のリサーチ。

行政に対する請願・要望。地区家族会・会員家族会との連携・協力。会員の高齢化による役員の担い手不足などなど。

これらの諸課題をクリアにすることが急務です。

私たちの活動の原点は、知的障がいを持つ子供・家族の権利を守り、より良い環境で親亡き後も安心して生涯を送ることができるよう、入所・通所・グループホームなどの支援事業所ともコミュニケーションを図りながら、行政に陳情・要請することです。

コロナ禍、異常気象の影響による災害増加、世界情勢の不安定化によるインフレや物価上昇など、今後の経済面での影響も心配です。

国や地方自治体の財政赤字が深刻化して、障がい者支援に対する予算が削減されるようなことはあってはなりません。

私たち家族会は、しっかりと連携し、積極的な活動を継続していく責任があります。

運営に携わっていただける若い世代の方々を増やしていくことも喫緊の課題です。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

緊急事態宣言が解除され、道家連活動は本格的に動き出しています。

衆議院議員 佐藤 英道 様

北海道知的障がい児・者家族会連合会の皆様、2022年度の総会のご盛会、誠におめでとうございます。

今年のゴールデンウィークは、新型コロナウイルス感染症が世界中を覆った2020年から2年4カ月ぶりに、緊急事態宣言もまん延等防止措置もないゴールデンウィークを迎えました。

街にはようやく賑わいが戻り、マスクをしながらお互いに感染防止に努めながらではありますが、ようやく明るい日常が帰ってくるという「希望」を抱く大型連休となったのではないのでしょうか。

今日ご参加の皆様方にもようやく少し一息つけることができると感じになった方もおられるのではないのでしょうか。

今日までの2年5カ月余の間の皆様のご苦勞はいかばかりであったかと、深く心を痛めずにはいられません。

皆様方のご努力があって、新しい日常を取り戻すことが一日も早くできたらと日々感じております。

と同時に、こうした感染症の拡大や、大規模災害が発生した際に、皆様方に少しでも安心して生活して頂ける環境整備、事前の備えを今一段しっかりとしたものにしていかねばならないと、気持ちを引き締めていきたいと感じております。

この新型コロナ禍でのご苦勞、また2018年の胆振東部地震とブラックアウトで皆様を感じたご苦勞やご不安などを、今一度思い返し、また改めて皆様からお話をお伺いしながら、本当の意味でのレジリエンスの強化、人間の安全保障という観点に立った防災・減災の実現に向けて、本日の総会を機にしっかりと取り組んで参りたいと考えます。

今後一層、皆様方のお力になれるようしっかりと働いて参ります。

引き続きのご指導ご鞭撻、またご意見やご要望をお聞かせ願いますよう、心よりお願い申し上げます。

末尾に、本日お集まりの皆様、会員始めご関係の皆様方のご健勝、ご多幸を衷心よりお祈り申し上げます、総会へのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課 課長 秋田 裕幸 様

「北海道知的障がい児・者家族会連合会2022年度総会」が、開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、日頃より、北海道の障がい者福祉施策の推進に多大なるご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

貴会におかれましては、障がい児・者に係る福祉施策の充実と改善を図るため、知的障がいのある方々のご家族等の悩みや思いを共有すると共に、課題解決に向け、請願や要請に取り組む等、皆さま方のこれまでのたゆまぬ努力とご活動に深く敬意を表します。

現在、新型コロナウイルス感染症の蔓延が続き、障がい福祉サービス事業所や入所施設ではさまざまな感染防止対策を実施し、サービスの提供に努力しているところですが、サービス提供の維持のためには、ワクチン接種をはじめ、感染対策を継続していく必要がある状況となっておりますので、皆様におかれましては、引き続きご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

さて、道では、昨年度からの3年間を計画期間とする「第6期北海道障がい福祉計画」に基づいた各種施策を実施しております。

本計画では、「希望するすべての障がい者が安心して地域で暮らせる社会づくり」を目指し、障がいのある方を主体とした支援体制づくりを進め、本人が希望する暮らしの実現、意欲や障がい特性に応じた地域活動が保障される社会づくりを市町村や貴会をはじめとする関係者の皆様と協働して取り組んでまいります。

北海道知的障がい児・者家族会連合会の皆様におかれましては、今後とも、道の障がい者福祉施策の推進に変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会の活動がますますご発展され、会員の皆様方のますますのご健勝をお祈り申し上げ、総会開催に当たってのご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 北海道知的障がい福祉協会 会長 大垣 勲男 様

北海道知的障がい福祉協会会長の大垣です。

2022年度の北海道知的障がい児・者家族会連合会の総会の開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

北海道知的障がい児・者家族会連合会におかれましては、日頃から、知的障がいのある方やご家族の現状や思いを共有し、家族が相互に連携し、知的障がい児・者の福祉施策の充実・改善を図る活動に取り組まれており、それぞれの地域における会員の皆様のこれまでのご労苦に敬意を表しますとともに、障がい者支援施設をご家族の立場からご支援いただいておりますことに改めて御礼申し上げます。

新型コロナウイルスによる感染拡大が一向に収まる兆しを見せない中、障がい児・者の日常が脅かされる状態が一体いつまで続くのか、ご家族の不安は益々増大するばかりと拝察されます。

障がい者施設では、道内全域でクラスターが確認されその対応に追われ、面会や外出が制限される期間が長引いており、利用者のストレス軽減に配慮しながらの支援が続いています。

現在、国では、社会保障審議会障害者部会において、令和6年度の次期報酬改定に向け、様々な議論が行われています。

当協会として、特に障がい者の高齢化や障がいの重い方の支援は大きな課題と受け止めており、グループホームや入所施設のあり方について、国での検討状況を見守りつつ、調査等により道内の支援実態を的確に把握し、国や道に改善に向けた提言や要望を行っていく必要があるものと考えています。

貴会におかれては、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道知的障がい児・者家族会連合会の活動の一層のご発展と会員の皆様のご自愛のほど、心よりお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 北海道手をつなぐ育成会 会長 佐藤 春光 様

＊誰もが安心して暮らせる社会へ ～ 戦争は絶対に許さない! ～

「北海道知的障がい児・者家族連合会 2022 年度総会」に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

今、マスコミからは「コロナ」と「ウクライナ」の報道が連日、それも一日中と言っても過言ではないほど私たちに届けられています。

しいて、この二つの出来事の共通点を述べるなら、私は命の大切さではないかと思います。

特に「このままで良いのか」と私たちの有り様にも、鋭い提起をしているのが「ウクライナ」の問題だと思えます。

戦争は大量の障がい者を生みだします。そして、ほとんどの障がい者は逃げるすべもなく、殺されていきます。

「助かってほしい」というみんなの願いもむなしく、今も多くの障がい者や、障がい者にされた人たちが殺されているのです。

私たちの日々の活動は、障がい者の幸せな人生を支援することです。

その原点から考えるなら、小さな差異は保留し、大きな一致点で団結することだと思ふのです。

今年度は「北海道知的障がい児・者家族連合会」と「北海道手をつなぐ育成会」がより一層、しっかりと手をつなぎ、共に歩む一年になることを願っています。

きょうされん北海道支部 支部長 清水 道代 様

「北海道知的障がい児者家族連合会」様の総会にあたり、お祝い申し上げます。また、貴会におかれましては、日頃より障がいのある人たちの福祉向上のためご尽力されておられますことにあらためて敬意を表します。

新型コロナウイルスの収束がされないなか、ロシア軍によるクライナ侵攻に多くの人が心を痛めています。きょうされんでは、ウクライナの障害のある人に精いっぱい心を寄せ、クライナへの軍事侵攻即時停止と戦争反対を広く呼びかけ、緊急声明とウクライナの障害のある人への連帯を示す行動として緊急募金を呼びかけています。

当会は昨年度も北海道への要望書を提出しました。新型コロナウイルス感染症対策費用関係、就労支援事業所等の賃金・工賃保障補助交付実施について、道内いずれの自治体においても障害福祉に関するサービス受給が途切れることなく当事者が不利益を被らないこと、相談支援事業の充実のための財政措置、安心して地域で暮らせるようにグループホーム事業予算拡充、重度障害者医療助成について障害種別の格差がないようにすることの6項目をまとめました。本年度も継続して北海道へ働きかけていく所存です。

今年度の総会は、3年ぶりに現地開催とオンラインの併用開催致しました。ハイブリッド形式の新たな方法は、広大な北海道での活動においては有効な手段ではありますが、リアルでの集合型を再開したことは、コロナ前の活動に戻していくことを感じさせました。

今年は、優生保護法や生活保護法、65歳問題等の障害分野に関連する裁判で判決が相次ぎます。きょうされんでは、重ねて学習会や裁判の応援をし、障害のある人が他の者との平等を基礎として、人権と尊厳を享受できる社会をめざしています。

当会が結成から取り組んでいる国会請願署名・募金運動は今期で45次となり、現在集約しています。「いのちの尊さ」や「人としての尊厳」が守られることを切に願う多くの人たちの思いを5月末には国へ届けます。障害者運動は「あきらめない、こびない、ぶれない」を合言葉に粘り強く進めることです。今後も引き続きともに歩みを進めていただければともいます。

最後になりましたが、貴会の皆様のご健勝とご活躍、ますますの発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

道央知的障がい者福祉施設協会 会長 中島 浩樹 様

はじめまして。4月から地元、地方会の会長をさせていただいている中島でございます。
所属は、北ひろしま福祉会の共栄という入所施設で管理者をさせていただいています。
道家連の総会には勉強の意味も含め、初めて出席させていただきました。

道家連7項目の要望や今回行われたアンケートの内容など、私ども北海道知的障がい福祉協会の地方会、並びに北ひろしま福祉会の施設職員側でも課題になっています。

私たちの入所施設では、看取りについて昨年から取り組みを始め、今年2月には実際に看取った事例もあり、チーム支援で看取りに取り組んでおります。

また、保護者の方たちの面談でも親亡き後の安心というところの関心が一番高いですし、行政に働きかけるなど、私どもの施設としても、福祉施設協会としても取り組んで参ります。

利用者の方たちが長年住み慣れた施設やグループホームなどで、安心して生涯を過ごしていただきたいという思いは私たちも同じですので、利用者や家族会皆様のお役に立ちたいという思いで、本日出席させていただいておりますことをお伝えしたいと思います。

職員の人手不足の問題もありますが、北ひろしま福祉会では採用した新人15名ほどの教育研修をし、育てながら必死に取り組んでいるところでございます。

最後に、私どもの施設で高度障害の生活の場、運動の場をこの4月に開設しましたが、施設内だけで利用するのではなく、地域介護も視野に入れておりますので、道家連の皆様にも見学を兼ねて、ご来場いただければと思いますので、検討よろしく願いいたします。



編集後記

一生懸命に活動していらっしゃる、それぞれの友誼団体様に敬意を表します。
お互いに尊重し合えるよう、手を携えて歩めるよう、努力したいと思います。
次回「ほっと36号」は10月の発行予定で、各家族会の情報を共有したいと思います。
ご投稿をお待ちしております。
<道家連事務局> info@dokaren.com